

第39回日独スポーツ少年団同時交流

日本スポーツ少年団は、生涯スポーツの先進国であり、地域社会を基盤としたクラブ組織が充実しているドイツのスポーツ連盟の「スポーツユーゲント」をお手本として、昭和37年（1962）に創設されました。このような深い関係にあるドイツのスポーツユーゲントと日本スポーツ少年団が相互に団員を派遣しあい、ホームステイ等を行い交流することで、今日の国際社会で若い世代の国際理解と協力を促進することを目的に、昭和49年（1974）から実施されている事業です。

2012年7月31日(火)～8月4日(土)の5日間、第39回日独スポーツ少年団同時交流事業により、ドイツ・スポーツユーゲントからの派遣団が堺でホームステイを行いました。



ドイツ派遣団と竹山市長（中央）、志摩文化観光局長（右から4人目）佐野川谷本部長（左から3人目）



大阪城公園にて



本願寺堺別院

ドイツ団は、滞在中に、大阪市内、堺市内をめぐり、大阪城や本願寺堺別院など日本文化に触れ、特に堺市内観光では、伝統産業会館の刃物展示見学、鉄砲隊のコスチューム試着など、堺の歴史探訪を楽しみました。



鉄砲片手に武士体験



堺市伝統産業会館にて



少林寺拳法体験



さよならパーティー

来日前から楽しみにしていたという武道体験では、少林寺拳法の技に興味津々、みなさん意欲的に参加していました。さよならパーティーでは、大阪府スポーツ少年団事務局も参加し、ホストファミリーとの長くも短くもあった4日間を振り返りながらの楽しい食事会となりました。

連日の猛暑のなかでしたが、ホストファミリーも行事に積極的に参加していただき、きっと思い出に残る堺滞在になったのではないかと思います。